

しろうとのしくじり

著者	望月 行男
雑誌名	静岡地学
巻	10
ページ	19-20
発行年	1967-10-26
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00026067

しろうとのしくじり

望 月 行 男

砂 金

富士川の川べりに立って、足もとを洗う清流の底をきらきらと金色に輝いて移動するおびただしい粒の群を見た。てっきり砂金と思いこんだので、その輝くものの流れ寄ったところを探しては、砂ごとすくい集めた。

疲れて、一休みと腰を下ろし、ふと考えた。「さてよ、これがほんとに砂金だとしたら、比重が 19 もあるのだから、砂の上を流動するはずがない。水流に砂は流れ動いたとしても、砂金だけは下へ下へと沈下するにちがいない。すると、これはなんだろう。」

ともかく、砂金でないとすれば、持って帰ってもしようがない。洗面器を伏せたほどに積み上げた中から、一にぎりだけ紙につつんで、ポケットに入れた。

.....

正体が雲母だとわかったのは、それから何年もたった後だった。

ス ピ ー シ ズ

横文字のまるっきりわからない悲しさ、疑問やあきれた失敗が数々ある。

その 1 : 岩床は sill or intrusive sheet , 岩脈は dike or vein 。 or というのがなんと多いことだろう。or などつけずに、それぞれ独立させられないものかしらと不審に思うのである。

その 2 : 化石の sp. をそのままスピーシーズという種名と思いこみ、なんと同じ種名の多いことかとあきれた日もあった。

高 師 小 僧

豊橋の高師ヶ原が第三師団の演習場だったことをご存知の方がおありでしょうか。あそこで演習のまっさい中、各個躍進をして、パッと伏せたら、そこが高師小僧の産出地で、あるわ、あるわ、美事なやつがごろごろ。夢中で拾いあつめていたら、後から大叱一声、「バカヤロー、エイソウダゾ！」(営倉 = 軍隊のブタ箱のこと)

岩 石 園

PTAの委員さんが、トラックを運転して伊豆まで行ってくれることになった。さて、大仁で狩野川の河原に下りて迷った。どれもこれも安山岩に相違ないが、これぞというものはなかなかない。ここですっかり時間をくってしまい、小室山で棒石を頂戴し、清水(しょみず)でレピドシクリナを拾ったら、それでお帰りの時刻と相成った。

「先生。この車は乳牛3頭ぐらい積むのだけ。たったこれだけじゃ車が泣くよ。」

賤 機 翡 翠

ぎんなんをむいたような翡翠の美しさには、女性ならでもうっとりとしてしまう。

某月某日、来客あり。「賤機翡翠というものだそうですが、指輪になりましょうか。」見せて貰ったところ、玄武岩の中に自変成による緑泥石らしきものが、点々と散っている。

「お金をかけるほど値打ちのものではないようです。」と、答えたが、翡翠を欲しいと思っているわたしにも残念なことだった。

一 つ 覚 え

枕状溶岩を覚えると、河原の転石まで枕状溶岩に、鏡肌を覚えると、すべすべしているところはどこも鏡肌に見えてくる。そこで兵隊の頃を思いだした。

「看護兵殿、肩がはれました。」

「ヨーチンを塗れ。」

「看護兵殿、むし歯が痛みます。」

「ヨーチンを塗れ。」

「看護兵殿、恋の病です。」

看護兵殿はスッと立上り、不動の姿勢をとって、ピンセットを指揮刀のようにかまえ、号令した。

「ヨーチンををを……、塗れ！」



< 新刊紹介 >

小 島 郁 生 . 著

” 恐竜からマンモスまで ”

— 図鑑・太古に消えた動物たち —

著者がのべているように、この本は古生物学のわかりにくい解説書でもなければ、生物進化を説くこむずかしい専門書でもない。サラリーマンや学生諸氏が通勤・通学の途上で、週刊誌やスポーツ新聞を買うかわりに手にとってどこからでも自由に拾い読みして楽しめるようにできている。こ